

平成 25 年度厚生科学研究費補助金（慢性の痛み対策 研究事業）
分担研究年度終了報告書

「痛み」に関する教育と情報提供システムの構築に関する研究

分担研究課題：痛みに関する情報を統合する機関の整備と広報活動

研究分担者 池本竜則

愛知医科大学 運動療育センター 助教

研究要旨

「慢性の痛みを診療する医療体制の構築」のためには、医療者だけではなく、一般市民への教育も重要であり、そのためには、痛みに関する学術情報を集約可能かつ、市民への情報発信も可能な機関が必要であると考えられる。分担研究者らは、上記の目的と一致する痛み関連の NPO 法人を設立した経緯があり、NPO 法人「いたみ医学研究情報センター」において、本主研究事業と連携することにより、痛み教育の広報活動を行った。平成 25 年度は、主研究により作成された資料を元に、「医療者への教育」と「一般市民への教育」へ正しい痛みの知識を普及させる活動を行った。

A. 目的

「慢性の痛みを診療する医療体制の構築」のためには、医療者だけではなく、一般市民への教育も重要であり、そのためには、痛みに関する学術情報を集約可能な機関かつ、市民への情報発信も可能な機関が必要であると考えられる。これまで本分担研究では、主研究事業と連携することにより、慢性疼痛に関して、科学的根拠に基づいた情報システムを発信できる機関を設立し、その組織作りを行ってきた（平成 23 年度～）。そこで今年度は、慢性の痛み研究班員を組織の主メンバーとする NPO を組織母体として、医療者への痛みの教育普及活動及び、一般市民への痛みの教育活動を行うことを目的し、主研究により作成された資料を元に、「医療者への教育」と「一般国民への教育」へ正しい痛みの知識を普及させる活動を行った。

B. 方法

NPO 法人「いたみ医学研究情報センター」を組織母体とし、医療者への教育は、医療者研修会として年 2 回。市民への教育は、市民公開講座として年 3 回程度の開催を予定した。また、同時に Web ホームページを通じて、痛みのコンテンツを広報するため、更新情報を随時 Update できるシステムを構築した。

医療者研修会には、これまで主研究により作成された、医学・歯学・リハビリなどの教育コンテンツをもとに、これらの領域の医療者を対象とした研修会をワークショップ形式で開催することとした。さ

らに、後半の開催では、複数の視点による痛みの評価が必要になるというコンセプトに則り、多職種のグループディスカッション形式によるワークショップとし、同時に参加者の理解度試験を実施し、学習効果についても検討した。

市民公開講座では、原因や治療の確立されていない慢性疼痛として社会問題となっている CRPS（複合性局所疼痛症候群）などを題材として取り上げ、CRPS と診断されてからの治療経験などについて、痛みにもどのように向き合うべきかを実際の患者の立場から講演を行うこととした。また公開講座の演者は、本研究班のメンバーにより選定することとした。

C. 結果

医療者研修会の開催

医療者研修会は、大都市圏（東京・大阪）にて、年 2 回開催した。

1) 東京開催：慢性の痛みワークショップ

開催日時：H25 年 6 月 23 日（日）10：00～15：00

開催場所：東京都品川 京急第 2 ビル

参加人員：53 名

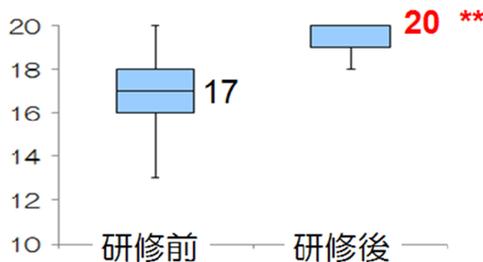
2) 大阪開催：慢性の痛みワークショップ

開催日時：H25 年 11 月 17 日（日）10：00～15：00

開催場所：大阪府 新大阪丸ビル

参加人数：54 名

理解度試験の結果（20 問）：



研修前後に行った理解度試験の成績（中央値）。
 (Wilcoxon signed-rank test, **P<0.01)

市民公開講座の開催

平成 25 年度の市民公開講座は、東京都、福岡県のいずれも都市部で開催した。

1) 市民公開講座：「その痛み、なぜ周りは分かってくれないのか？」

開催日時：H25 年 10 月 20 日（日）

開催場所：イイノホール&カンファレンスセンター
 （東京都千代田区）

講演内容：

- 1) 「CRPS と診断されてから -患者、そして記者として見たこと」・・・講師：古田彩氏
- 2) 「いたみに耳をすます -疼痛をめぐる患者さんと医師の関係」・・・講師：谷川浩隆氏（医師）
- 3) 「オーストラリアでの慢性痛治療経験」・・・講師：浅枝まり子氏

2)市民公開講座：「痛みの苦しみとその真実」

開催日時：平成 26 年 1 月 13 日（月）

開催場所：アクロス福岡 国際会議場(福岡市中央区)

講演内容：

「慢性に続く腰の痛みには?!」・・・講師：山田信一氏（医師）

「痛みが苦しくなるメカニズム：言葉にできない思いの役割」・・・細井昌子氏（医師）

D. 考察

「痛み」及び「情報」を検索ワードとした Web 情報は溢れており、そこには医療機関の紹介だけに留まらず、様々な商品広告が含まれているが、医療者ですら十分な痛み診療の教育がなされていない現状では、一般市民がそのニーズを抽出する能力「痛

みの情報リテラシー」は不十分であると考えられる。そこで本年度は、H23 年度より行作成された「正しい情報に基づいた痛みの教育資材」を基にして、「医療者」及び「一般市民」に対して、広報活動を行った。

医療者向け研修会では、特に「慢性の痛みに対しては、様々な立場から問題解決に取り組むことが重要である」という学際的視点に基づいたワークショップを行った。研修会には医師だけではなく、理学療法士や看護師など多くの職種からの参加を募り、グループ間で問題解決を図るディスカッションを行うことで、慢性痛に対してより実践的な理解を高めることが可能になったのではないかと考えられた。また実際に、理解度試験を行うことにより慢性痛に対する知識の向上が確認された。

市民公開講座では、訴訟など社会問題となりやすいCRPSや、原因や病名の特定困難な慢性疼痛について、実際に患者側の立場からどのように向き合うべきかについて教育講演を行った。また医師の立場から、慢性疼痛が理解されにくい原因や、その背景となる社会のしくみについて問題提起を行った。いずれも、Web 情報などに代表される「この薬や器具を使えば痛みが良くなる」という考え方ではなく、痛みを良くするためには、自らが痛みについて理解し、それに基づいた行動や習慣を体得していくことが重要であることを伝えることで「痛みの情報リテラシー」を向上させることにつながったのではないかと考えられる。

G. 研究発表

池本竜則 他、「市民アンケートからみた痛みの診療の実態調査」第 6 回日本運動器疼痛学会 平成 25 年 12 月 6 日（神戸）

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

該当なし。

2. 実用新案登録

該当なし。

3. その他

該当なし。